

平成29年11月23日 イクネスしばた
歴史入門講座

新発田合戦を巡る近年の研究 新発田合戦と新発田城跡の発掘調査

新発田市立中央図書館
歴史図書館整備室

鶴巻 康志

はじめに

新発田氏とは、どんな一族

発掘調査で遺跡を解明する。(新発田城跡を例に)

新発田城跡で発見された遺物

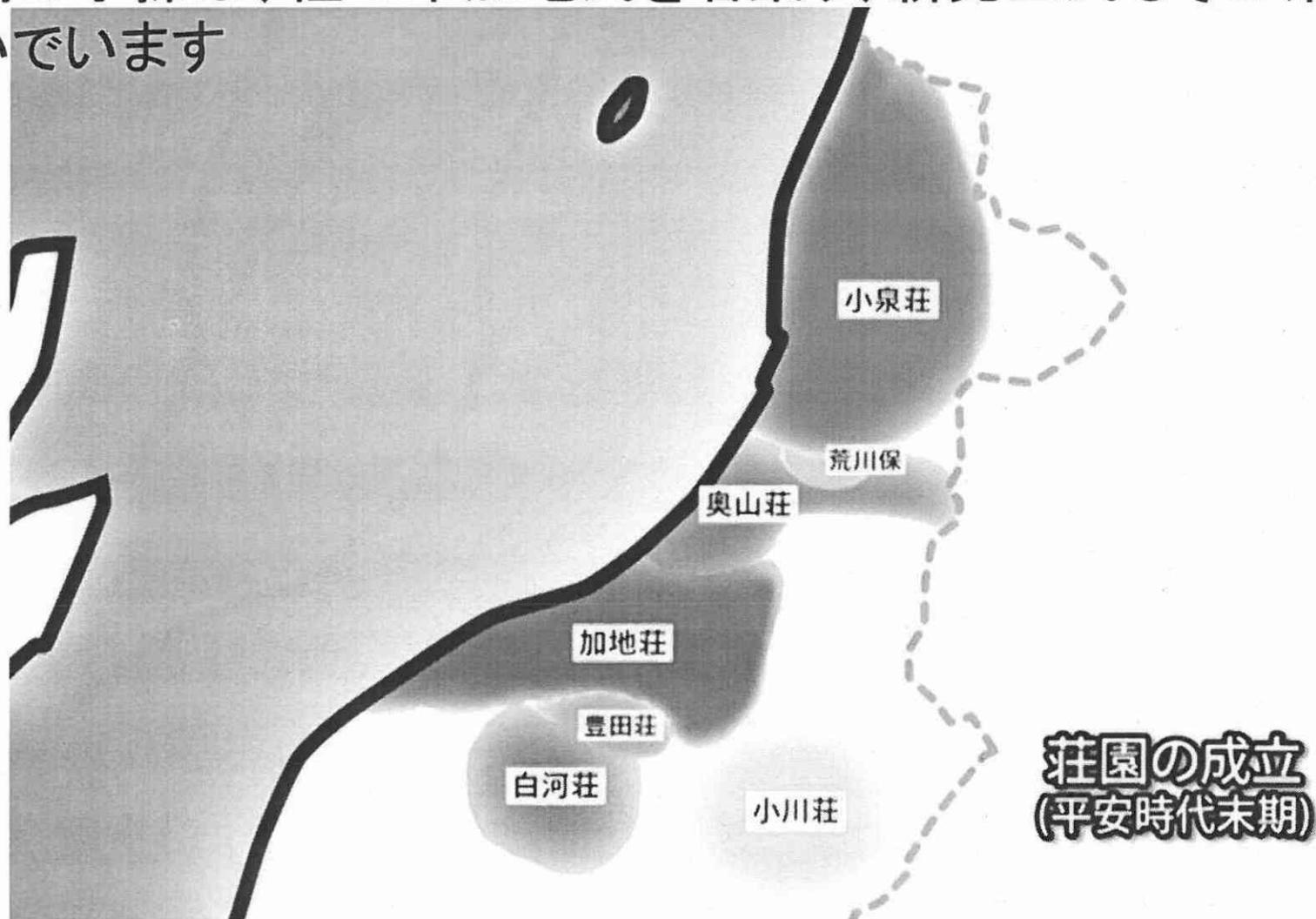
- ・出土陶磁器は年代を測るものさし
- ・戦国時代の国産陶器と輸入陶磁器

新発田城跡で発見された遺構

- ・新発田城跡という遺跡の特徴

新発田氏とは、どんな一族

加地荘は平安時代末期に城氏によって開発されたと推定されている荘園のひとつです。鎌倉時代に加地荘の地頭となった佐々木盛綱の子孫は、佐々木加地氏を名乗り、新発田氏もその系譜を引き継いでいます



(画像元データ: 米沢市上杉氏博物館所蔵)

新発田氏とは、どんな一族（最近の研究から）（阿部2009）。

豊田庄地域

戒名・法名	供養	供養者所在・目的・取次	年 月 日	丁	掲載
実重		シハタ ミツマトノ、父志	大永元(1521) 7月22日	60ウ	108上
林芳樹公大姉		シハタ 三瀧母	天文3(1534) 正月2日	7ウ	121下
圓海綱公居士		シハタ 三瀧叔父	天文4(1535) 7月25日	1ウ	122上
央心中公		シハタ 水間帯刀 小三良	天文5(1537) 6月7日	84オ	103下
松翁融公		新発田 ミツケン ミスマタチハキ	天文6(1537) 6月9日	11オ	120中
瑤林椿公大姉		越後蒲原郡豊田庄中目 取次内方 三瀧出羽守立之	弘治2(1556) 9月24日	19ウ	118上
傑叟莫公大姉		越後国蒲原郡豊田庄 長政為老母 シハタノ中目ノ三瀧トノ	天文22(1553) 8月1日	20オ	118中
印叟心公大姉		上同(越後国蒲原郡豊田庄) 長政立之	天文22(1553) 2月20日	20オ	118中
芳秀		荒川 三瀧	天文5(1536) 4月15日	84オ	103下
松巖道金		トヨタ庄小阪孫三良立之	天文17(1548) 5月29日	31ウ	115上
高俊		豊田庄ヲキノ新保 与二郎	大永5(1525) 9月14日	63オ	108下
常貞		ハンハラ豊田庄八満住 石山藤大良	大永5(1525) 5月23日	62ウ	108中
妙仙仙 妙慶		トヨタ庄ヤワタ玉泉	永正17(1520) 9月25日	56ウ	109上
道慈		カンハラ 豊田 八幡 教運	大永5(1525) 8月14日	64ウ	107上
妙泉		トヨタ庄 八幡先達立之	大永5(1525) 8月14日	74オ	105中
見秀		宮内 豊田 八幡 良巖	大永5(1525)11月26日	64ウ	107上
浄珥		豊田 八幡 小野ヨウチ五良	大永8(1528) 4月13日	71オ	106中
芳堅常春谷 同 祐光	逆	八幡 藤ナイ立之	天文5(1536)11月20日 同4月6日	79ウ	104中
長栄居士		八幡 安藤	天文5(1536) 5月24日	79ウ	104下
鉄叟全生清信	逆	エチコ シハタ 八幡一本杉 伊藤次郎衛門 トリ次佐藤トノ	永禄2(1559) 2月28日	93ウ	101下
全金妙清禅尼		エチコ トヨタ 八幡 伊藤トノ女中立之	永禄2(1559) 2月28日	93ウ	101下

中ノ目

八幡

新発田氏とは、どんな一族（最近の研究から）

2008年に高野山の清浄心院に所蔵されている「越後過去名簿」の内容が示された。ここで、加地荘の南に隣接する豊田荘の三瀨氏が天文22(1553)年には新発田家中に属していたことを示唆する記述が発見されました(阿部2009)。



古丸付近発掘調査地点の位置



発掘調査で遺跡を解明する。(新発田城第8地点の中国製青花碗)

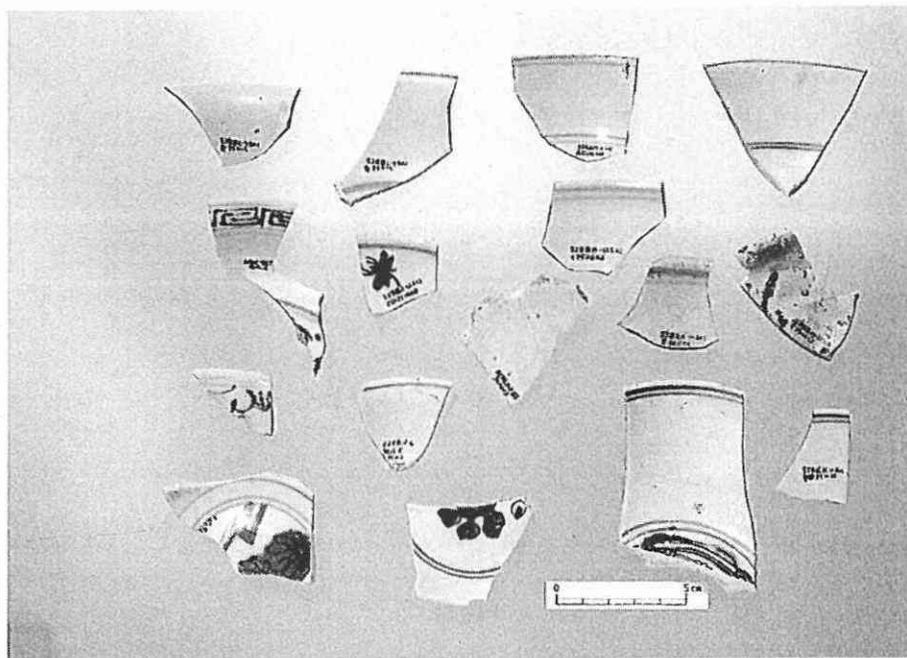
(大阪城跡出土の中国製青花分類)



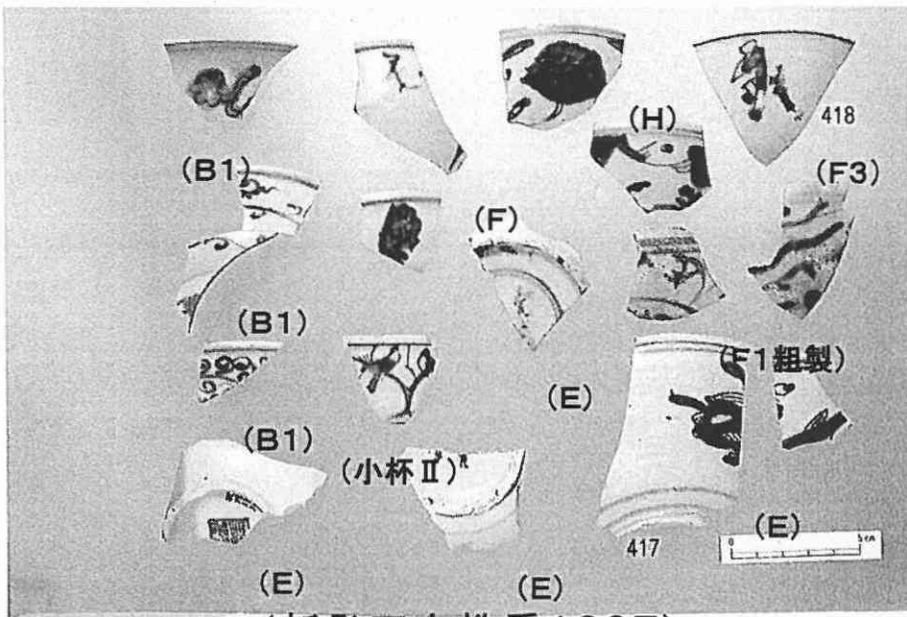
図2 16・17世紀の青花分類

森 毅 1995

(森毅1995)



青花碗内面



青花碗外面

(新発田市教委1997)

発掘調査で遺跡を解明する。(新発田城第8・10地点の中国製青花皿)

(大阪城跡出土の中国製青花分類)

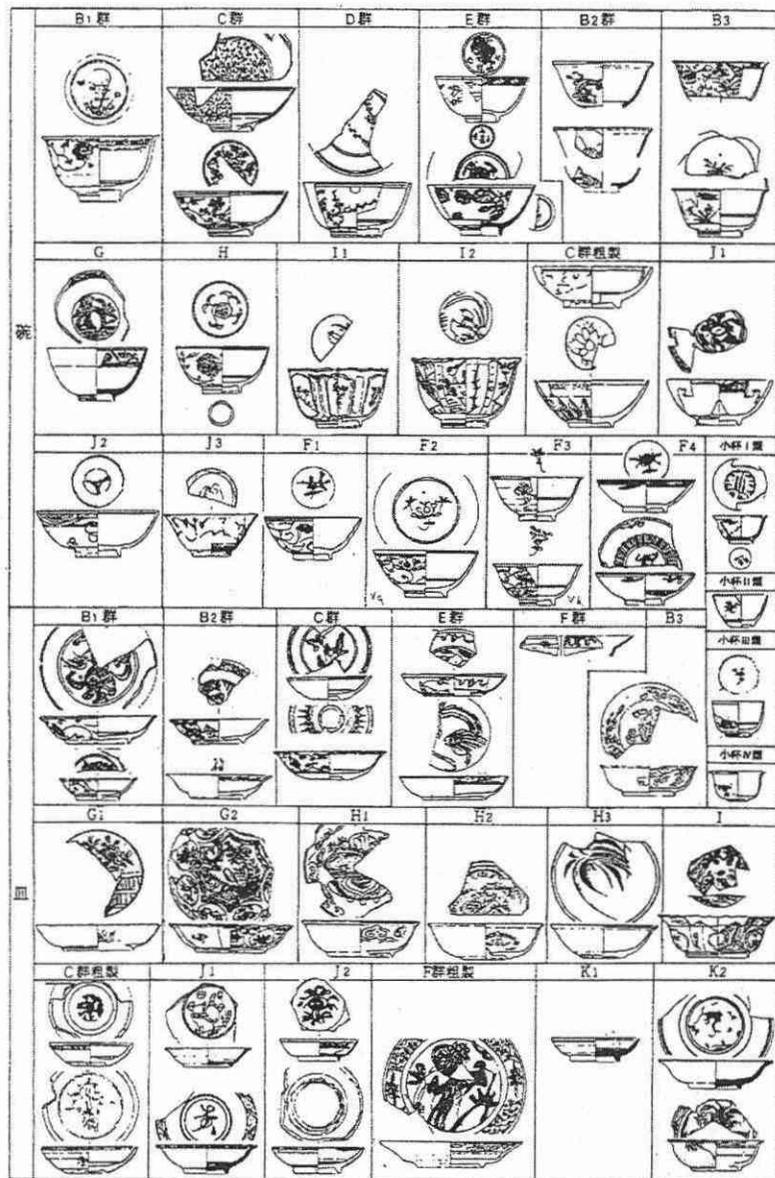
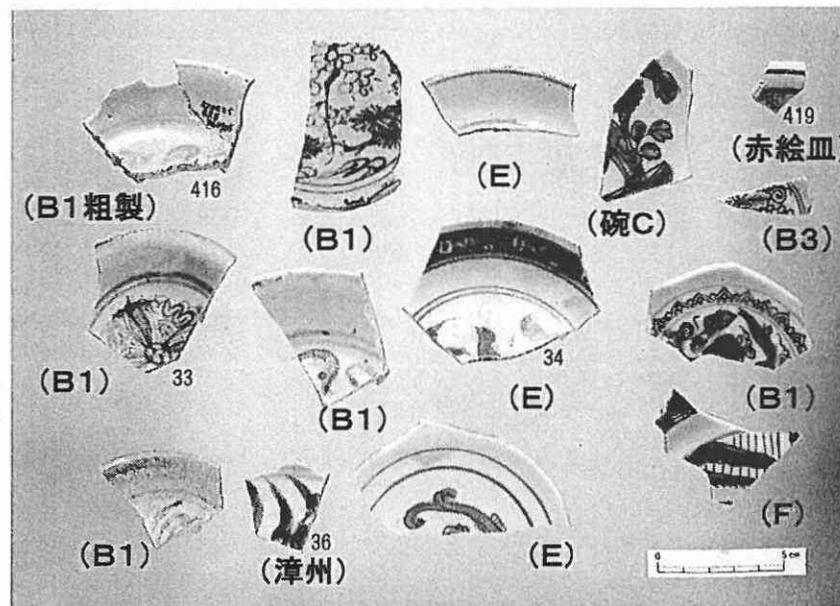
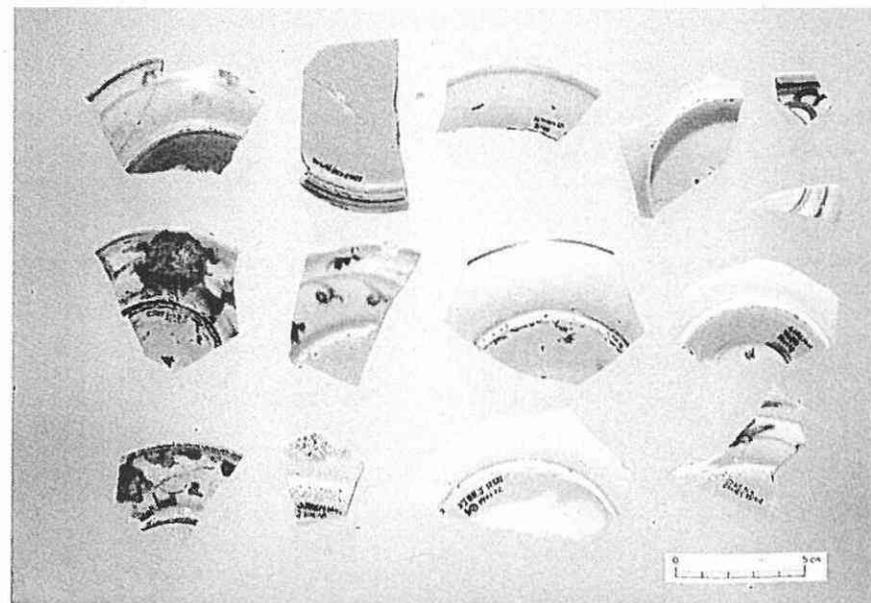


図2 16・17世紀の青花分類

森 毅1995 (森毅1996)



青花皿内面



(新発田市教委1997)

発掘調査で遺跡を解明する。(新発田城第12地点の中国製青花皿)

(大阪城跡出土の中国製青花分類)

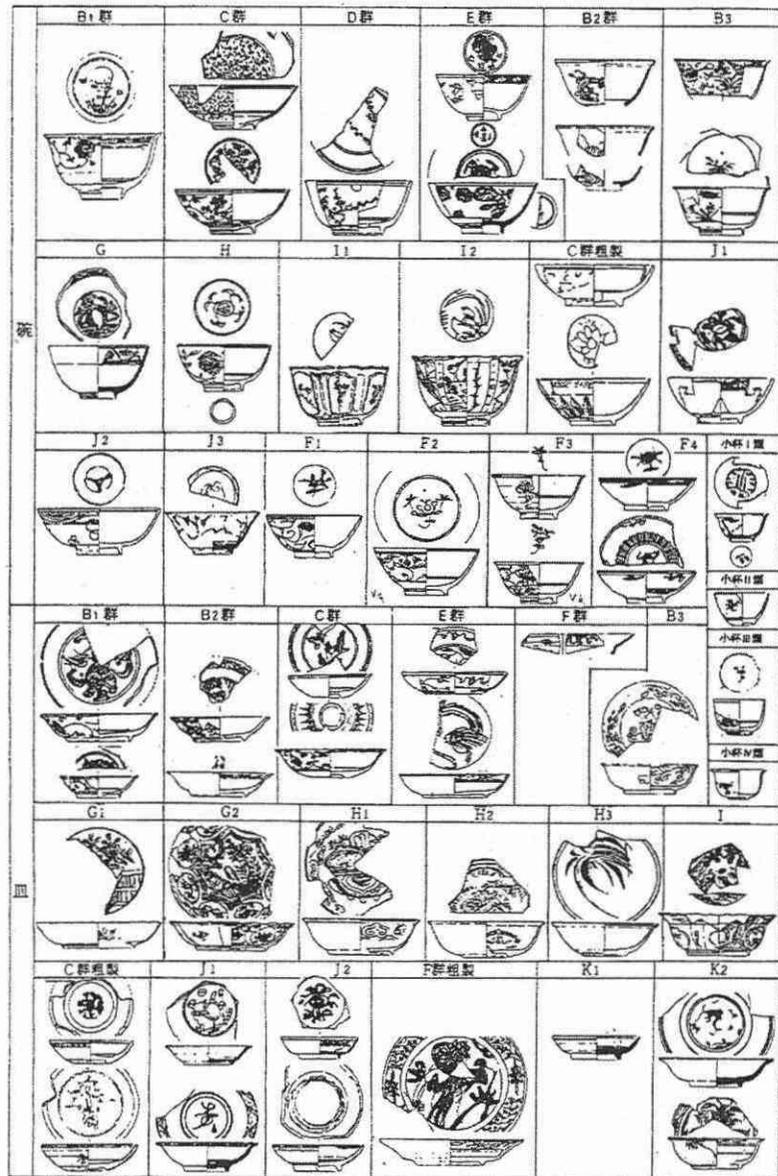
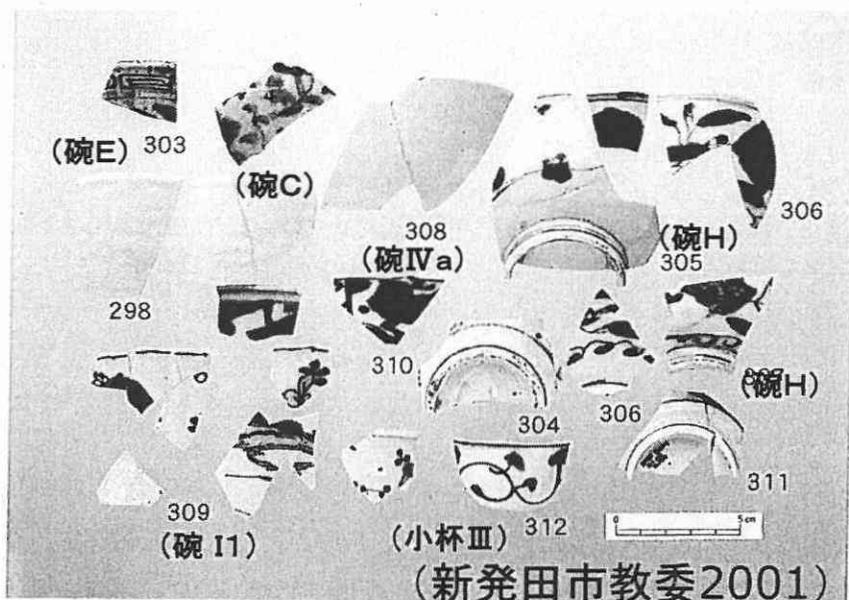
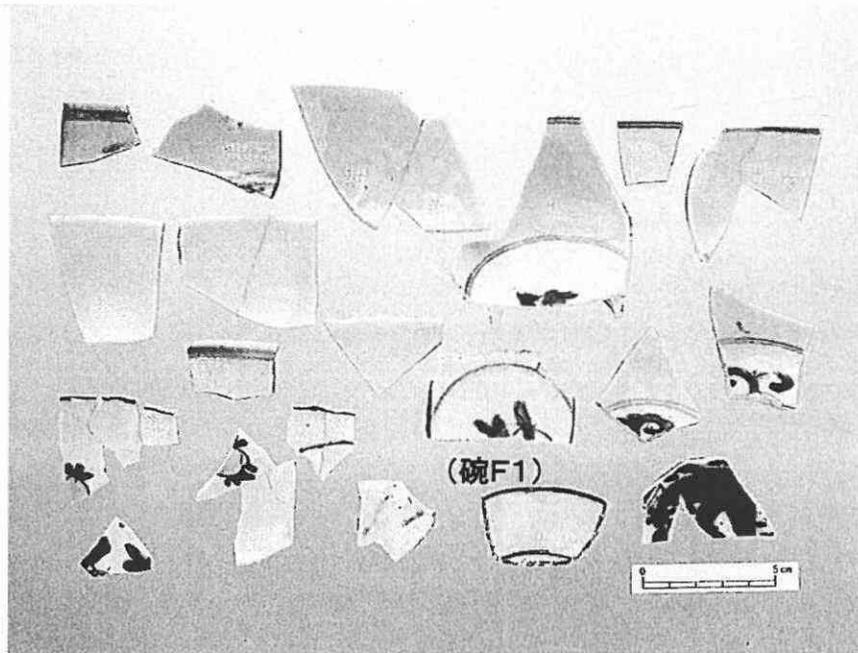


図2 16・17世紀の青花分類

森 毅 1995 (森毅1996)



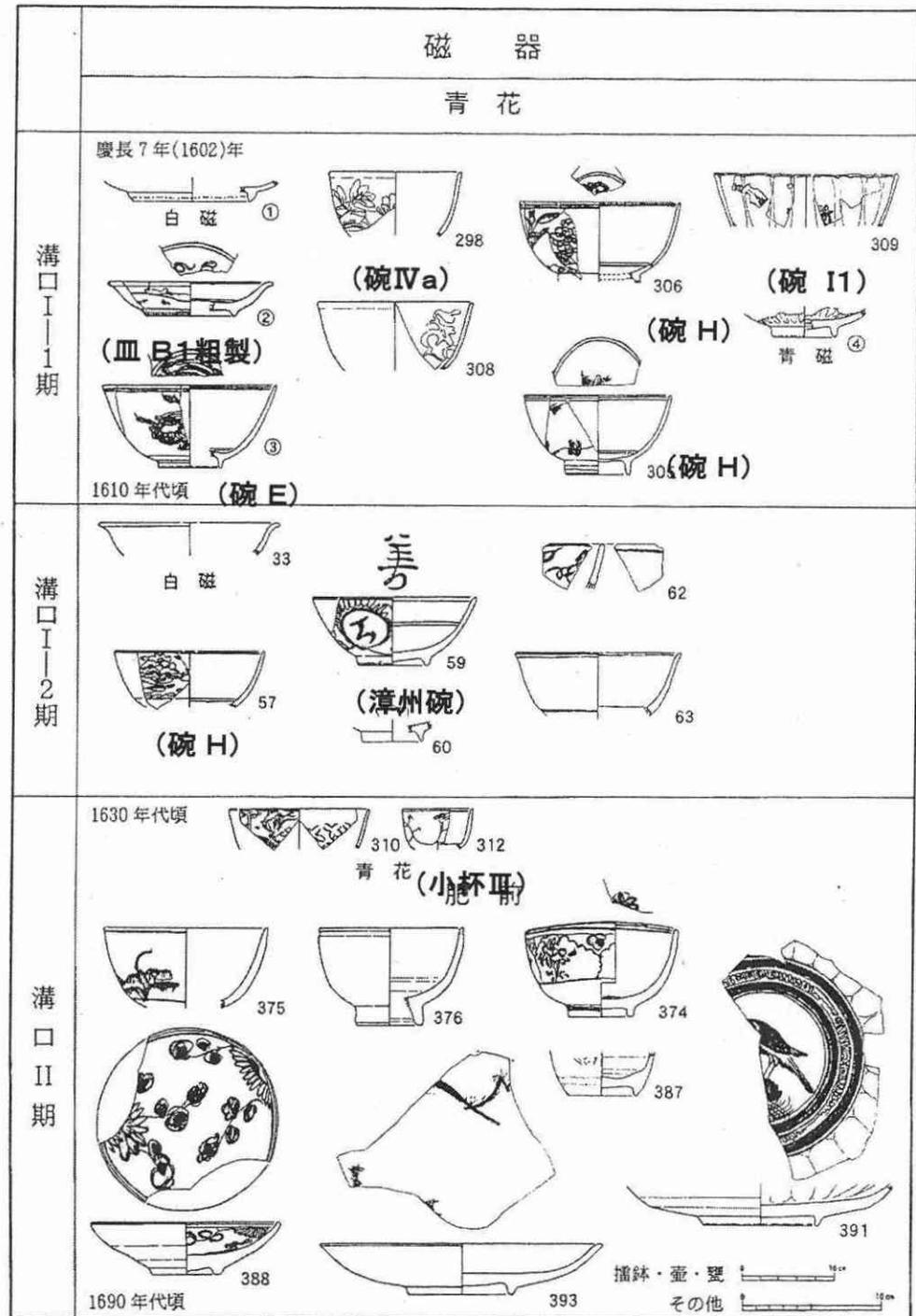
(新発田市教委2001)

発掘調査で遺跡を解明する。 (新発田城跡 第10地点 ・12地点出土中国青花)

大阪城跡豊臣後期(秀吉が亡くなる直前から大坂夏の陣まで)との対比から新発田城跡第10地点堀1・第12地点土坑12・13の出土品は17世紀初頭、すなわち溝口氏が新発田城築城に取り掛かった時期の遺物と考えられる(溝口I-1期)。

第10地点の遺物は、深く彫り込まれた堀の下層から出土。

・第12地点土坑12・13のは、後に土塁が築かれ、さらにその上に二ノ丸隅櫓が建てられていたため、江戸時代の攪乱や、明治時代の土地改変の影響がほとんどなかった。



第47図 新発田城における17世紀代の陶磁器・漆器の変遷

発掘調査で遺跡を解明する。(新発田城跡 第10・12地点)

陶器				漆器	土師器
瀬戸美濃	肥前	越前	備前		
<p>(大3後) ⑤ (大4前) 326</p> <p>(大4後) 志野 ⑥ (大4前) 327</p> <p>(大2) 32 (大4後) ⑧</p> <p>(大4後) ⑩ (大4後) ⑨</p> <p>335</p> <p>(連登1-2)</p> <p>(大4前) 135 (大1) 137</p>	<p>薬灰釉 350 胎土目 ⑪</p> <p>軟質施釉陶器 ⑩</p> <p>351 361 352 361</p> <p>胎土目 ⑫</p> <p>142 144 122 123</p> <p>砂目 143</p>	<p>⑬</p> <p>⑭</p> <p>⑮</p> <p>340</p>	<p>342 344 344</p> <p>信楽 ⑮</p>	<p>469</p> <p>470</p> <p>468</p> <p>466</p> <p>467</p>	<p>手づくね</p> <p>419</p> <p>421</p> <p>422</p> <p>回転糸切り</p> <p>428</p> <p>441</p> <p>445</p>
<p>331 (大4前)</p> <p>334 (大4後)</p> <p>333 (大4後) 志野</p>	<p>上野 336</p> <p>砂目 349 砂目 354 砂目 355</p> <p>胎土目 345 348 347</p> <p>砂目 358 胎土目 360</p>	<p>肥前</p> <p>363 364 365 362 362</p>	<p>備前 343</p> <p>472 476</p>	<p>溝口正勝墓所 (1670年没)</p> <p>5</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>6</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>7</p> <p>474</p> <p>473</p> <p>476</p>	<p>(福田1999)</p>

①~⑮は新発田城第10地点掘1(鶴巻ほか1997所収)

発掘調査で遺跡を解明する。(瀬戸美濃焼の分類と年代)

瀬戸・美濃大窯製品編年表 (1)

		天目茶碗D類	平碗A類	平碗B類	丸碗A類
1480	前半				
	後半				
1530	前半				
	後半				
1560	前半				
	後半				
1590	前半				
	後半				
1610	前半				
	後半				

0 15cm

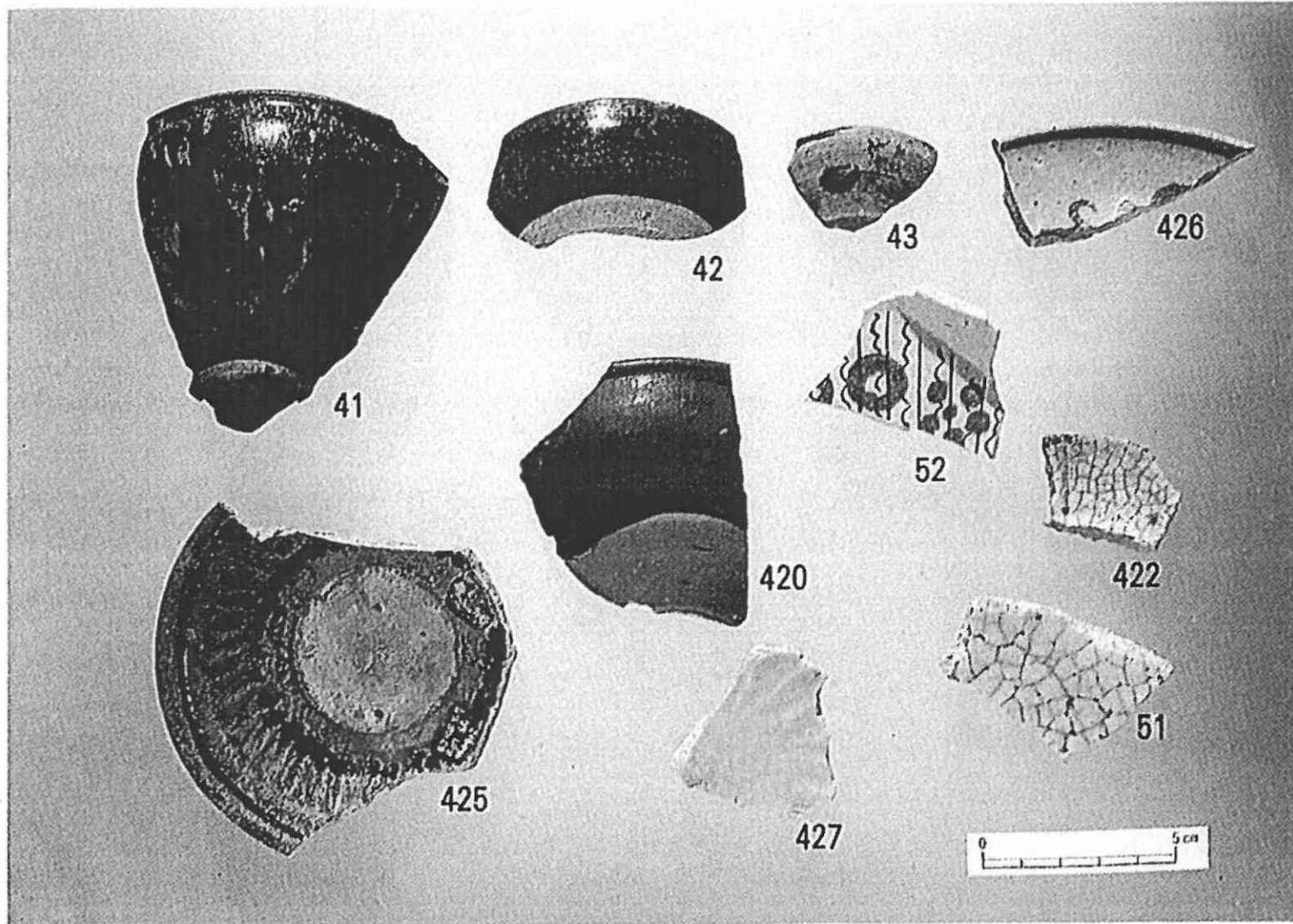
瀬戸・美濃大窯製品編年表 (2)

		小杯	小天目	端反皿	丸皿類	稜花皿
	前半					
	後半					
	前半					
	後半					
	前半					
	後半					
	前半					
	後半					
	前半					
	後半					
	前半					
	後半					

0 15cm

窯跡の資料に基づく瀬戸美濃焼の分類(一部)と年代(愛知県2007)

発掘調査で遺跡を解明する。(新発田城跡 第8・10地点)



瀬戸美濃

瀬戸美濃(2)

瀬戸美濃焼で新発田城跡とほかの遺跡を比較してみる

新発田氏の動向と各遺跡の瀬戸美濃焼の出土量

遺跡名(調査面積) / 年代	1300 1350 1400 1450 1480 1530 1560 1590 1600 1610																連房1	連房全般	破片数	文献
	前～中				中期				後期				大塚							
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2						
新発田城跡 第8地点(1,705㎡) 接合後破片数320					12				6								1	2	297	(新発田市教委1997) 14・15世紀代方形居跡。 鹿沢・榑崎集計
	1	9.5	3.5	11	14	54	67	16	26.5	65	20	5	1	3	1					
新発田城跡 第10地点(95.7㎡) 接合後破片数38					4												1	2	38	(新発田市教委1997) 近世築城時に埋めた堀? 鹿沢・榑崎集計
	1								1	4.8	1.8	2.3	22	1						
新発田城跡 第12地点 (土坑12・13土層下層)									1				3				1	2	5個体	(新発田市教委2001) 近世築城時に埋めた土坑 と土層の下層
									古	新	前	後	前	後	前	後	前	後		

()内の数はその上段の壁に含む内数
少数派以下は0期～0期とされたものを併記したことになる。

1590年位々木盛隆が加地を築城となる

1425年肥後の中に「新発田」の地名が現れ始める

1533年豊田新三郎氏が新発田家中に昇っている

1576年豊原の乱がおきる

1582年 豊原が豊原討伐を命じる

1587年新発田合戦跡地

1599年豊口氏入封

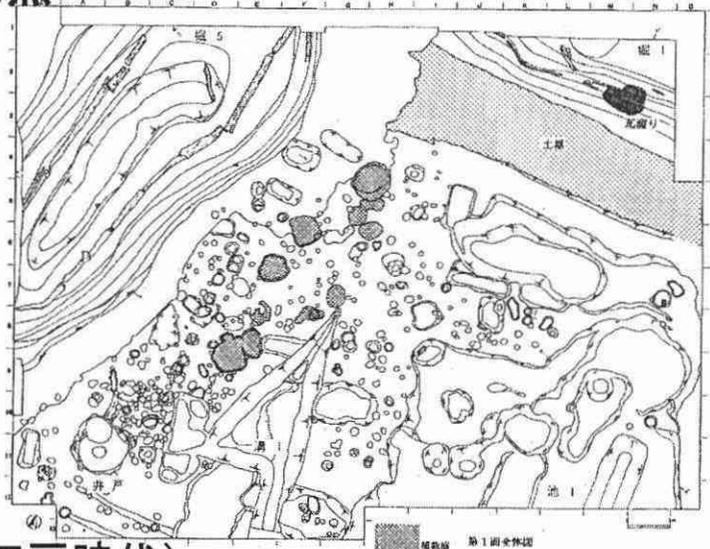
1602年新発田城跡の修復が始まる。

1611年 2代豊原の母が二ノ丸に居住する

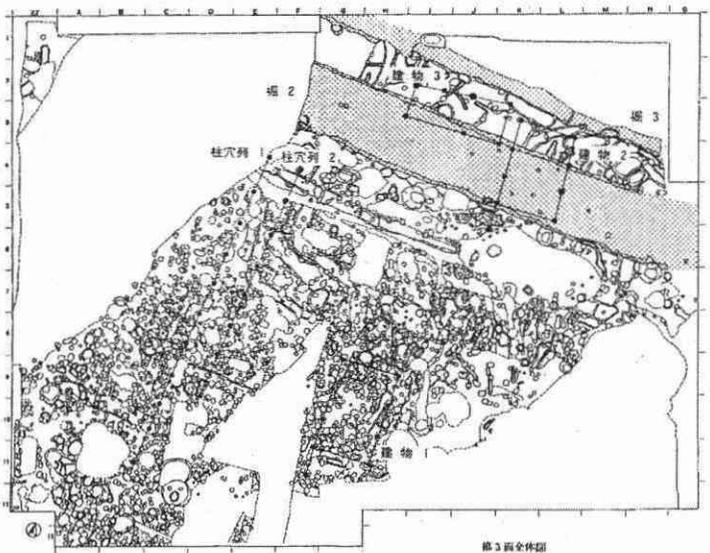
遺跡名(調査面積) / 年代	1300 1350 1400 1450 1480 1530 1560 1590 1600 1610																連房1	連房全般	破片数	文献			
	前～中				中期				後期				大塚										
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2									
蛟ヶ尾城(413㎡) 図化数26 総点数40													25				12	11.5			26個体	(妙高市教委2008) 1579年落城	
									古	新	前	後	前	後	前	後	前	後	末				
平林城跡(4,582㎡) (1～9次) 総点数88													4				7.5	3.5	3			20個体	(村上市教委2017) 1598年廃城
									古	新	前	後	前	後	前	後	前	後	末				
江上館跡(5,775㎡) 総点数369	4				59				297				9						369	(愛知県2007) 15世紀初頭に島坂城下へ 移転			
			6		21	30	51	18	28	(4)													
春日山城(*㎡) 監物堀地区・長恩寺地区 (堀秀治による普請含む) 総点数691					2				15				301						691	(愛知県2007) 謙信入城1548～堀秀治 1598～1607年廃城			
			6		1				13.6	75.6	64	10.5	10.7		1								
八王子城跡(2,800㎡) (御主殿) 総点数432									2				27						432	(愛知県2007) 北条氏昭築城1587年～ 1590年落城			
	1							2	1	5	8.9	30.0	3	2									

発掘調査で遺跡を解明する。(新発田城跡 第8・10地点)

第8地点



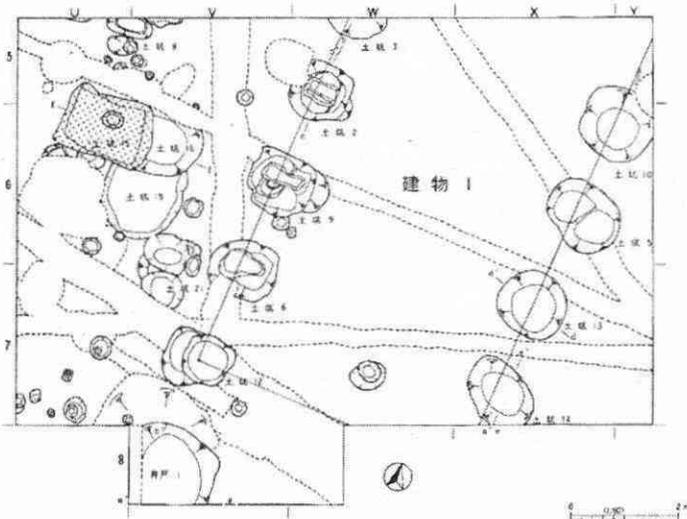
(上層:江戸時代)



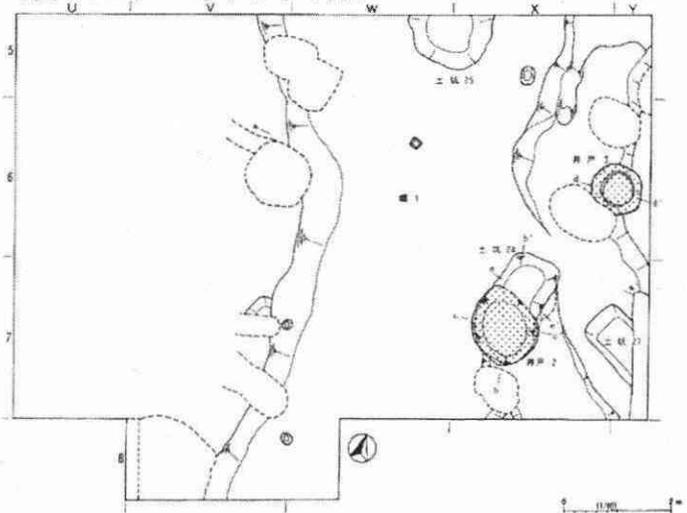
新発田城第8地点

(下層:室町時代~安土桃山時代)

第10地点



(上層:江戸時代末期)



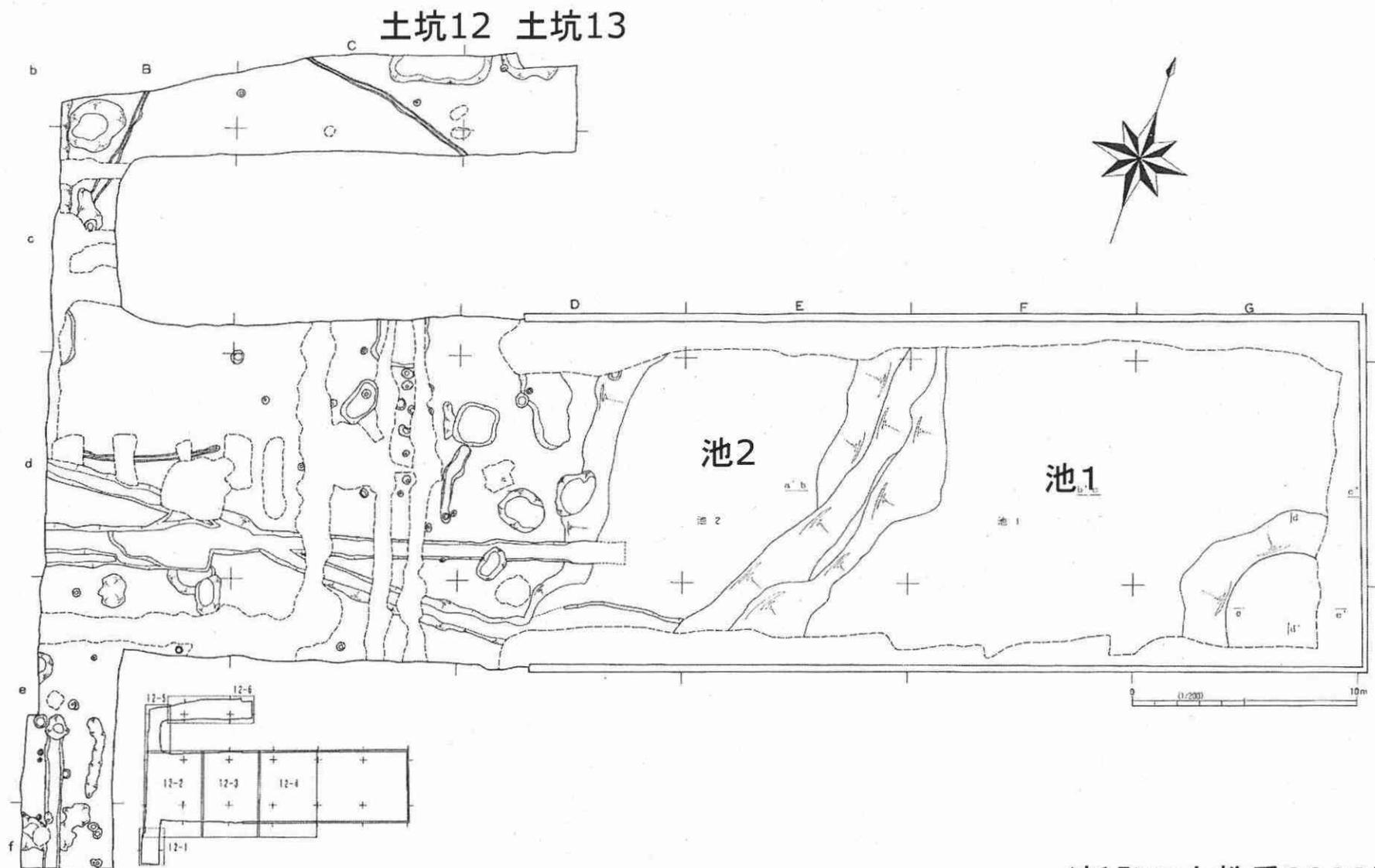
下層平面図

新発田城第10地点

(下層:平安時代~江戸時代初期)

(新発田市教委1997)

発掘調査で遺跡を解明する。(新発田城跡 第12地点)



(新発田市教委2003)

発掘調査で遺跡を解明する。(新発田城跡を例に)



発掘調査で遺跡を解明する。(新発田城跡を例に)

新発田城跡で発見された遺物

出土陶磁器は年代を測るものさし

戦国時代の国産陶器と輸入陶磁器

中国製青花や瀬戸美濃焼を分析すると、新発田城跡からは新発田合戦の時期に使われていた焼き物が出土していることが分かった。

ただし、量比をみると最盛期の室町時代よりも新発田合戦の時期は量が減少している。

新発田城跡で発見された遺構

新発田城跡という遺跡の特徴

(1100年以上、掘っては埋められ続けてきた)

まとめ

古文書調査の所見から

高野山の清浄心院に所蔵されている「越後過去名簿」の分析から天文22(1553)年、豊田荘中ノ目(現新発田市豊浦地区中ノ目)に三瀨氏という一族がおり、彼らは加地荘に拠点を持つ新発田氏の配下に属していた可能性が高い。

つまり、戦国時代には加地荘新発田氏の勢力が豊田荘に及んでいたことを裏付けることができる。

発掘調査の所見から

新発田城跡の発掘調査により、新発田合戦の頃に使われていた焼き物の内容が明らかになった。

最近の県内の発掘調査の所見から、新発田合戦の前後の出土品の様子も明らかになりつつあり、新発田城跡の再評価が可能となった。

参考引用文献

- 愛知県 2007『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世瀬戸系』
- 阿部洋輔 2009「高野山に供養された新発田のひとびと」『新発田郷土誌』第37号 新発田郷土研究会
- 新発田市教育委員会 1997『新発田城跡発掘調査報告書Ⅱ』(第7～10地点)
- 新発田市教育委員会 2003『新発田城跡発掘調査報告書Ⅲ』(第11・12地点)
- 鶴巻康志 2002「新発田城における17・世紀前半の土器・陶磁器・漆器組成について」『新潟県考古学会研究発表会発表要旨』
- 妙高市教育委員会 2008『斐太歴史の里確認調査報告書Ⅲ』鮫ヶ尾城跡 立ノ内館跡
- 村上市教育委員会 2017『平林城跡Ⅱ 史跡整備事業に伴う発掘調査報告書』
- 森毅 1995「16・17世紀における陶磁器の様相と流通—大坂の資料を中心に—」『ヒストリア』第149号 大阪歴史学会

新発田氏の動向と各遺跡の瀬戸美濃焼の出土量

年代	1300 前~中				1350 中期				1400 後期				1450 大窯				1480 連房1		登窯全般	破片数	文献
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2			
新発田城跡 第8地点(1,705㎡) 接合後破片数317	1				45				176				94				4		320	(新発田市教委1997) 14・15世紀代方形居館。 藤沢・櫛崎集計	
	(1)	(9.5)	(3.5)	(12)	(15)	(54)	(68)	(12)	(28)	(64)	(20)	(6)	(1)	(3)	(3)	(1)	(3)	(1)			
新発田城跡 第10地点(95.7㎡) 接合後破片数38	1				5				31				1		38	(新発田市教委1997) 近世築城時に埋めた 堀?藤沢櫛崎集計					
	(1)							(1)	(4.8)	(1.8)	(2.3)	(22)	(1)								
新発田城跡 第12地点 (土坑12・13土壘下層)									4				1		5個体	(新発田市教委2001) 近世築城時に埋めた土 坑と土壘の下層					
									(1)	(3)	(3)	(1)	(1)								

1190年住々木盛綱が加地在地頭となる

1423年記録の中に「新発田」の名跡が使われ始める

1553年豊田荘三浦氏が新発田家中に属している

1578年御館の乱がおきる

1582年 景勝が重家討伐を命じる

1587年新子

1598年溝口氏入封

1602年新発田城堀の普請が始まる。

1611年 2代重綱の母が二ノ丸に居住する

()内の数はその上段の数に含む内訳数
少数点以下は〇期〜〇期とされたものを按分したことによる。

遺跡名(調査面積) / 年代	1300 前~中				1350 中期				1400 後期				1450 大窯				1480 連房1		登窯全般	破片数	破片数
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2			
鯉ヶ尾城(413㎡) 図化数26 総点数40									26						26個体	(妙高市教委2008) 1579年落城					
									(2.5)	(12)	(11.5)										
平林城跡(4,582㎡) (1~9次) 総点数88									20						20個体	(村上市教委2017) 1598年廃城					
									(4)	(7.5)	(3.5)	(3)									
江上館跡(5,775㎡) 総点数369	4				59				297				9						369	(愛知県2007) 16世紀初頭に鳥坂城下 へ移転	
		(6)		(21)	(30)	(51)	(18)	(28)	(4)												
春日山城(*㎡) 監物堀地区・長恩寺地区 (堀秀治による普請含む) 総点数691					8				28				652				1		691	(愛知県2007) 謙信入城1548~堀秀治 1598~1607年廃城	
			(6)	(1)				(13.6)	(75.6)	(64)	(105)	(107)	(1)								
八王子城跡(2,800㎡) (御主殿) 総点数432	1								2				27				2		432	(愛知県2007) 北条氏照築城1587年~ 1590年落城	
									1	5	89	300	3	2							